

学部横断型教育プログラム 「バリアフリー教育プログラム」

学部（部局）横断型教育プログラムとは

東京大学では2009年度より、狭い専門知識だけでなく、新たな学問的課題に果敢に挑戦し、幅広い分野を横断していく柔軟な思考力を備えた学生を育成することを目的として、学際的・分野融合的な「部局横断型教育プログラム」を提供している。現在、大学院・学部後期課程を合わせて10のプログラムが開設されており、本バリアフリー教育プログラムは、学部後期課程向けのプログラムとして2011年度に開設された。

バリアフリー教育プログラムの概要

●プログラムの趣旨

社会生活上の「バリア」を生み出すのは、作為的な差別や偏見である以上に、我々が自明のものと考えている文化的・慣習的・社会的な営みそのものである。本プログラムは、バリアを生み出す社会文化的な実践についての知的探求を目的として、学部の枠を越えた横断的なカリキュラムを提供する。誰もが生活しやすいバリアフリー社会を構想し、それを実現していくための知見を創出し、蓄積し、また発信していこうとする皆さんの積極的な参加を期待している。

●プログラムの構成

選択必修科目であるコア科目（A群及びB群からそれぞれ1科目以上を履修）と一般科目によって構成される。コア科目では教育学、社会学、経済学、支援技術論等の観点からバリアフリー研究の理論と方法に関わる基礎的な知識を習得し、一般科目では各学部の既存の科目によってその応用・展開を目指す。なお、プログラムに関する最新の情報については、教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センターのWebサイト（<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cbfe/cdp/index.html>）を参照のこと。

●対象

学部後期課程に所属する学部学生（3～4年生）を対象とするが、大学院学生も履修可能。

●修了

選択必修科目を含む12単位以上を取得した学生に、「プログラム修了証」を交付する。修了証の取得を目的とせずに、個別の科目のみを履修することも歓迎する。

プログラム科目一覧（2022年度）

※選択必修科目として、コア科目A群・B群から、それぞれ1科目以上を履修する。
※「*」＝2021年度休講

コア科目

A群

ディスアビリティ・スタディーズ（星加良司、教育学部）
*社会環境バリアフリー論（近藤武夫・福島智、教養学部）

B群

障害と経済（松井彰彦、経済学部）
バリアフリー総論（中邑賢龍他、教養学部）
バリア・スタディーズ（小国喜弘他、教育学部）

一般科目

科目名	開講学部	担当教員
心の健康科学	医学部	宮本 有紀
福祉工学	工学部	二瓶 美里
開発経済Ⅰ	経済学部	澤田 康幸
社会学演習XI （支援とケアの社会学（1））	文学部	井口 高志
社会学演習XX （支援とケアの社会学（2））	文学部	井口 高志
表象システム論演習	教養学部	清水 晶子
*認知行動科学と現代	教養学部	井上 悠輔 武藤 香織
科学哲学演習Ⅰ	教養学部	石原 孝二

科目名	開講学部	担当教員
応用倫理学演習Ⅲ[科学技術論コース]	教養学部	石原 孝二
特殊研究演習「ジェンダー論演習」	教養学部	瀬地山 角
特殊講義Ⅱ（１）[北アメリカ研究コース]	教養学部	土屋 和代
地理・空間基礎論Ⅱ	教養学部	横山 ゆりか
質的心理学研究法Ⅰ	教育学部	能智 正博
安全・安心教育	教育学部	東郷 史治
比較教育学概論	教育学部	額賀 美紗子
特別支援教育総論Ⅱ	教育学部	小国 喜弘 他
ダイバーシティと社会	教育学部	飯野 由里子
フェミニズム理論	教育学部	飯野 由里子
子どもの貧困問題に関するサービスラーニングⅠ	教養学部	李 炯植
*子どもの貧困問題に関するサービスラーニングⅡ	教養学部	李 炯植